

レアンドロ・エルリッヒ 《Six Cycles》(2018)
©HOW Art Museum (参考画像)



美

美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内が地球上のすべての地域の「希望の海」となること。それが「海の復権」をテーマに掲げて、3年に一度開催されてきた瀬戸内国際芸術祭が目指すものだ。直近の2016年は、年間を通して約104万人の来場者が訪れるなど、芸術祭としては日本最大の規模を誇っている。前回の「瀬戸内国際芸術祭2016」では206作品が公開され、国内外からやって来た多くの人々がここでしか観られないアートを楽しんだ。

ゴールデンウィーク直前の4月26日(金)から、今回で4回目の開催となる「瀬戸内国際芸術祭2019」が始まる。会期を春、夏、秋の3シーズンに分け、4月26日から5月26日の春会期を「ふれあう春」、7月19日から8月25日の夏会期を「あつまる夏」、9月28日から11月4日

の秋会期は「ひろがる秋」と設定。①「アート・建築―地域の特徴の発見」②「民俗―地域と時間」③「生活―住民(島のお年寄りたち)の元氣」④「交流―日本全国・世界各国の人々が関わる」⑤「世界の叡智―



キム・キョンミン(金景賢) 《リメンバー-宇部》
(過去作品画像)

この地を掘り下げ、世界とつながる場所に」⑥「未来―次代を担う若者や子どもたちへ」⑦「縁をつくる―通年活動」という7つのコンセプトのもと、様々な事業がおこなわれる。例えば、会場のひとつである香川県・女木島では、島の人たちには便利な

存在であり、島外からの来場者にとつてはこの島独特のスポットとなるような、個性的な「小さなお店」を開く。このプロジェクトには、レアンドロ・エルリッヒをはじめ、宮永愛子、KOURYOUUらが参加する。また、香川県ゆかりの作家として、同県でホテルを制作中の宇川直宏、アーティストの南条嘉毅、香川大学×小豆島夢プロジェクトチームなどが作品やプロジェクトを展開する予定だ。

右に挙げた名前以外にも、この芸術祭には、クリスティアン・バステイアンス、日比野克彦、梶井照陰、垣内光司、キム・キョンミン、鴻池朋子、京都精華大学、村山悟郎、中村厚子、エコ・ヌグロホ、アナヒタ・ラズミ、切腹ピストルズ、塩田千春、田根剛、田島征三、サラ・ウエストファール、山川冬樹、やさしい美術プロジェクト、Yottaらが参加。個性的なアーティストたちの作品を、じっくりと楽しんでみたい。